

# 地域を愛し、社会性を身に付け自立した子供を西内野から育てよう!

## 新潟県新潟市

### 活動名

西内野小学校学校支援地域本部

### 関係する学校

新潟市立西内野小学校

活動区分	※H25年度の実績(補助の有無についてはH26年度の状況)			
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
土曜日の教育活動				
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	2人	103人	20年度	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	5人	44人	90日	有
コミュニティスクール	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	指定日	委員数	19年度	有
			児童生徒数	学級数

活動の概要

本事業に取り組んで7年目。「地域を愛し、社会性を身に付け自立した子供を西内野から育てよう」をスローガンに掲げ、活動の充実を図ってきた。それを支えるのは、今では年間のべ2700人を超えるボランティアである。特色として次の3点が挙げられる。

### 1 縦方向へのつながり

中学校区内における幼・小・中の連携事業は、以前より行ってきた。その枠を高校、大学に広げてきたことに特色がある。高校生による「お手玉教室」、大学生による「お茶体験広場」や「楽器指導」等。幅広い年齢層とのかかわりが、子供の社会性の伸長につながっていることへの確かな手応えを感じている。

### 2 学びの広がりや深まり

各学年の活動の中に、ボランティアが積極的に参加。専門的な立場や自身の経験をもとに、子供の活動を支援している。このことは、本物に触れる機会を提供することであり、子供の学びを深めることにつながっている。また、学習の場を教室から地域に広げ、地域のよさを実感することにもつながっている。

### 3 地域の活性化

ボランティアに加わることで、地域の方同士のつながりが生まれたり、子供とかわることに生きがいを感じたりしている状況が見られる。中には、「子供から元気もらっています。」と感想を寄せている方もいる。結果的には、地域の活性化にもつながっている。

## 特徴

### 【特徴的な活動内容】

#### 1 西っ子ふれあい広場

- ・PTA、地域、学校で協同開催。ボランティア数は1日で約400人。
- ・大人が20の広場（工作、理科実験、スポーツ、昔遊び等）を開設し、子供たちが、自分の選んだ活動に参加することを通して人にかかわることの楽しさや大切さ（社会性）を身に付けることをねらう。

#### 2 もちつき大会

- ・地域が主体となり学校施設を利用して開催。ボランティア数は約200人。
- ・地域で協力して準備から当日の運営を行う中で、子供たちに伝統文化を継承することや自主的にボランティアに参加することの大切さを身に付けることをねらう。

### 【実施に当たっての工夫】

- 1 「できることをできる人ができるときに」を基本的なスタンスとし、無理なくたくさんの方がかわれるよう地域全体に呼び掛けるとともに、西内野地区コミュニティ協議会、自治会や民生委員等の諸団体との連携を図っている。「ちょっと学校に手伝いに行こうよ。」が、地域での合い言葉である。
- 2 子供たちにとって、教科書では学べない大事なことを学べる良い機会となるように活動内容を工夫している。その際、全てできあがった状態を用意するのではなく、子供たちにできることを考えせたり手伝わせたりすることを大切にしている。
- 3 学習支援ボランティアへの協力依頼や活動の様子を、「西っ子支援隊だより」や学校のウェブサイトでも積極的に発信している。たよりは、できるだけ多くの人に見てもらえるように掲載記事の内容やレイアウトを工夫している。



西っ子ふれあい広場(大学生開催お茶体験広場)



もちつき大会(子供のもちつき体験)

## 事業を実施して

学校支援ボランティアの年間のべ人数は2700人を超える。地域の方も学校に来て子供たちにかかわることで、喜びを見出している方がたいへん増えた。

これまでに、西っ子ふれあい広場は11回、もちつき大会は6回開催している。学校支援ボランティアとしてかかわっている方を中心に、活動内容が年々充実してきている。子供たちは、異年齢交流の中で地域の方の優しさやすばらしさに触れたり、日々の学校生活の中で学ぶことのできないことを経験したりしている。このことは、学校教育目標の「心豊かに学び合う」を具現することにつながっている。

## その他

地域教育コーディネーターは、5名の運営主任とともに放課後の「子供教室の運営」にも深くかかわっている。ここでも、保護者や地域の方からの協力を得ている。地域の子供は、地域で育てるという意識が高まってきている。この意識の高まりが、本事業の更なる充実につながっていくと受け止めている。